

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2792000073		
法人名	株式会社 ニチイ学館		
事業所名	ニチイのほほえみ我孫子(あしたば)		
所在地	大阪市住吉区山之内1丁目20番4号		
自己評価作成日	平成21年12月15日	評価結果市町村受理日	平成22年5月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.osaka-fine-kohyo-c.jp/kaigospifomationPublic.do?JCD=2792000073&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成22年1月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

暖かい南向きのホームには、ホーム理念の入居者様と共に明るく穏やかな家で泣いたり笑ったりと、お互い気持ちを通じ合い仲良く暮らしています。食事は毎日一緒に買い物に行き、一緒に調理し一緒に食事しています。利用者様が淋しい気持ちにならないように、職員と共に暮らしていることを実感して頂くため、出退勤時には「行ってきまーす」「ただいまー」の挨拶を開所時より実行しています。地域の自治会、老人会、福祉会に加入し入居者様の地域での暮らしも充実しています。地域の催しへの出品も試みました。(地域の皆様に好評でした)
 昨年の取り組みたい課題もほぼ実行し、また新たな課題、希望をとりあげまた一歩地域に根づいたホームを目指したいと思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは2ユニットを一つの家とし、地域の中で利用者と職員が共に家庭を築いており、職員は「ただいま」と言って出勤してきます。利用者が地域で普通に暮らして行けるために職員が間に入り、「トイレ貸します」運動や福祉祭り等でホームをアピールし、買物帰りにホーム前のベンチで一休みしている近隣の方も見受けられます。また毎日の買物にも利用者と共に出かけ地域の店を利用し、散歩で親しくなった方に声をかけてもらう等、地域との関係も良好です。ホームでは利用者と共に庭の野菜を収穫し泥を払い、下ごしらえをする当たり前の風景が見られ、活気に満ちています。書類や薬の管理も徹底しており、利用者の前で記録を取ることは一切せず事務所で記入し、薬の保管に気を配り、何重ものチェック態勢で飲み残しや誤薬が無いよう努めるなど、利用者の安心を支えています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	【お客様と共につくる明るく穏やかな家庭】 【お客様との気持ちの共感】 【お客様を待つケア】のホーム理念を共有してお客様が地域の中で生活をし、ホームを我が家として穏やかに暮らしていけるよう実践している。	法人の理念を基に地域密着型サービスとして大切にしていきたい思いを職員間で話し合い、事業所独自の理念を作り上げている。理念は毎朝法人の経営理念と共に唱和し、会議等でも確認し合い、18人の利用者と職員が一つの家族として地域で暮らしていくための支援を心がけている。	事業所としての方向性やあり方を示した理念を職員以外の利用者や家族、来訪者にもよくわかるように、玄関やユニット入り口等に掲示されることが期待される。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎日買い物、散歩と地域との交流の機会を持ち、玄関には施錠をせず気軽に地域の人が入ってこれる雰囲気をつくっている。町会の一員として地域行事にも参加している。またボランティアの受け入れも積極的に行っている。	町会に加入し、掲示板を見たり近隣の声かけ等により区民祭りや福祉祭り等に参加している。地域の一員として近隣の掃除を行い、「トイレ貸します運動」にも参加している。また小学生の体験学習の受け入れや運動会の参加等、子供達との交流も見られる。ホームの行事に地域の方に参加いただいたり地域のボランティアを受け入れるなど、積極的な地域との関わりが見られる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	社会福祉協議会の催しを通して認知症への理解相談などに応じれるような機会をもっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に1回の運営推進会議を開催し、サービスの報告今後のサービス計画を報告話しあい、各参加者の方たちからの意見、社会的資源の紹介を利用してサービスの向上を図っている。	運営推進会議は2カ月ごとに利用者や家族、町会長民生委員、地域包括支援センター職員、管理者、職員が参加して開催されている。会議ではホームの現状や活動、外部評価の結果や避難訓練の報告がなされている。また家族からの質問や参加者からの助言を受け、情報を得るなど、有意義な会議となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	定期的に訪問して事業所の実情を報告して、指導をうけている。	運営推進会議の議事録を持参したり、何かあれば相談に訪れ、話す機会を確保している。また社会福祉協議会の会長が町会会長でもあることから、福祉祭り等参加し連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については全員が理解し、しない方向で一致しており、実行している。	ホームでは日中の玄関や階段等、鍵や柵をせず、ユニット毎の行き来も自由にできている。またセンサーに頼ることなく、見守りし、出かけた時にかけられる支援を心がけている。職員は身体拘束や高齢者虐待等についての研修や会議を通して知識や理解を深める努力をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の防止には徹底して学び、話し合いを繰り返し行っている。		

ニチイのほほえみ我孫子(あしたば)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度については利用している方、新規利用の方が入居されているので身近で学び、活用を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約などの書類に関してはゆっくりと読みあわせを行い、不安点、疑問点を話しやすい環境づくりをして十分な説明を行って理解、納得して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	会社が実施するアンケートで要望、意見を聞き取る機会を設けている。また家族が気軽に要望を話せるような関係を構築している。今年度より家族様からの意見、要望を今以上に反映できるよう玄関にご意見箱を設置、活用していく。	運営推進会議に利用者にも参加頂き、意見を聞く機会を確保している。頻回ある家族の訪問時や年2回行事の際に行う家族会でも意見を聞いている。また、法人の満足度アンケートを実施したり、意見箱の設置、外部の苦情機関を書面に掲載するなどし、利用者・家族の意見や要望の収集を図っている。出された意見は必要に応じ職員間や法人で検討され、毎月の便りや、運営推進会議、来所時等に報告されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回以上のホーム会議、また日々の申し送り時に意見、提案を発表し話し合う機会を設け職員全員で運営に参加している。	毎月の便りにスタッフの思いを記載し、家族に報告している。毎朝の申し送りはユニット別ではなく全員で行い、情報の共有を図ったり、個々の意見やアイデア、思いを話し合う場ともなっている。また管理者は個々の職員との面談を順次行い、意見や要望を聞くと共に、日々の悩みや相談事はリーダーが主に聞くように努め必要に応じて管理者に伝えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の職員の努力、実績、勤務状況などを把握しやりがいをもち働けるよう職場環境の整備につとめ向上心をもって働けるよう取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修、行政の行う研修などに積極的に参加できる環境をつくり機会を設けている。ホーム内においても伝達研修、勉強会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の介護サービス連絡会や社内ホーム間の交流を通じた勉強会、催しなどで質の向上を図っている。		

ニチイのほほえみ我孫子(あしたば)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス依頼時本人と何度も話す機会を持ち信頼を深め、要望を伺い入居に関しての不安を解消できるよう努めている。また入居時環境の変化、寂しさからの不安、要望に応え早期に安心して暮らせる環境を確保できるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様の悩み、不安、要望に安心して頂けるよう配慮して、家族様の求めていることを聞き、受け止めて信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状況、家族の希望などサービス開始時必要としているものをサービスとして提供し、リハビリ、往診などの対応にも努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は入居者様と家族としての環境をつくり共に生活をしていく家族として、一緒に考え一緒に行動し気持ちの共感をしていくよう努めている。職員の出、退勤時には「行ってきます」「ただいま」を挨拶とし淋しさを感じさせないようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人様の近況をお知らせし、本人様の生活、思いを家族様と共有し共に支えていることを実感して頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、友人など馴染みの人たちとの交流を持って頂けるよう面会、外出の機会を多く持つよう支援している。	利用者は地域の方が多く、友人や近所の方が訪ねてこられたり、公園や近隣の散歩中に出会って話しをすることもある。「トイレ貸します運動」を通じてホームが立ち寄りやすい場所であることを地域に示し、地域と利用者の関係性の継続に努めている。利用者の希望に沿って墓参りに同行したり、近くの喫茶店や映画館、デパート等への外出を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様個々の性格、行動を把握し一つの家族として仲良く、楽しく生活していけるよう支援している。		

ニチイのほほえみ我孫子(あしたば)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も家族の一員としての関係を断ち切らないよう気軽にホームに来て頂けるような関係を持っている。またご相談にも随時応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様、一人ひとりの意向を重視して、安心して日常生活が送れるよう本人本位に検討している。	利用者との日々の会話の中で、利用者の思いや希望を把握している。困難な場合も接する際の行動や表情を見たり、家族にも聞いたりしながら把握するよう努めている。得た情報はセンター方式のアセスメントを利用し、スタッフの思いや気づきを書き込む際にも活用している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式の一部を利用している。ご本人様の生活暦を把握できる限り、馴染みの暮らしを継続できよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人らしい暮らし、その有する能力に応じた自立支援を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人本位を基準として、家族様の意向をも取り入れ、それぞれが役割を持って、生き生きとした生活が継続できるよう、必要な関係者とも話しあい、介護計画を作成している。	利用者や家族の意見をもとに、職員全員が参加してカンファレンスを開催し、個々の思いやアイデアを持ち寄り、利用者本位のケアプランを作成している。また必要に応じて主治医、理学療法士の意見を聞き、ケアプランの作成に反映させている。ケアプランは3ヶ月毎にモニタリング、評価を行い見直しされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活を介護記録に記入。また1日2回のバイタルチェックを行い、健康管理を行っている。記録は、職員、医師、家族も共有して実践、見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	遠方からの家族様の面会に対応できるよう、和室を利用した宿泊、順応性のある食事作りを生かした急な面会時の食事提供など柔軟な対応をしている。		

ニチイのほほえみ我孫子(あしたば)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要に応じて各公共機関、地域ボランティアの協力を依頼している。現在、お話、指あみボランティアの方が、定期的に来て下さっている。また地域の催しにも積極的に参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	開設以来、往診医との信頼関係を維持しており、24時間体制にて往診(2/週、必要時)相談、緊急時と医療が受けられるように支援している。	全員が同じ状態で医療サービスが受けられるようにするため、ホームでは協力医をかかりつけ医としてもらうように入居の際に説明し、同意を得ている。月2回の往診を始め、看護師、歯科医等の定期的な往診を受けることが出来ている。また提携の薬局の協力を得て、薬の管理、補充を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制は取っていないが、往診医と24時間体制をとり、健康管理を行っている。必要に応じて、往診医との連携の元、訪問看護を利用している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時も家族との連絡、医師への容態説明、本人への面会を密にして、退院後の医療相談などを担当医、家族、職員、必要に応じて訪問看護などと連携し、早期退院を行えるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度、終末期のサービス提供を安心して、安らかに迎えられるよう、話し合い、方針を全員で共有し、実行している。	医療処置を必要とせず、家族が希望すれば看取りをすることも可能であることを入居時に家族に伝えている。これまでに看取りの経験もあり、職員間でも方針を共有している。家族の希望に沿って協力医や訪問看護等も交えて話し合い、利用者にとっての最良の方針を検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署が開く救命救急を受講し、基本的な初期対応を学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ホーム内に防災マップを提示。避難場所をすぐに確認できるようにしている。また、定期的に防災訓練を実施し、非難方法、経路の確認を行っている。	年に2回、消防署の指導を受け避難訓練を実施しており、災害時用の備蓄も3日分程用意されている。町会長より地域防災マップを配布してもらい、ホーム内に掲示している。職員が地域の防災訓練に参加したり、救急救命の研修にも参加している。運営推進会議においても訓練等の報告を行っている。	

ニチイのほほえみ我孫子(あしたば)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	敬語での声かけを基本とし、丁寧な対応をするよう取り組んでいる。名前の呼び方には親しみ、本人の希望などにより、姓、名と個々呼び分けている。	高齢者の尊厳はホームの根本とするものであり、家庭としての位置付けであっても礼節を忘れないようなケアに努めている。また不用意な言葉かけが見られた場合にはその場で注意し、接遇の勉強会も定期的に行っている。日々の記録は必ずスタッフルームで行うことで他の目に触れないよう配慮し、個人のファイルは鍵付きの書庫に適切に保管されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事、飲み物、その日の服装と本人の好みを出来る限り反映している。入居者が何をしたいのか求めているのかを常に確認し、ケアをするよう配慮している。入居者の思いをゆっくりと聞き意思表示して頂けるよう配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のペースに合わせ、スタッフが待つ介護を実践している、日々の日課を作らず、その日の入居者の希望、状態によってケアを行うよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装の乱れや、汚れ染みに注意し、清潔感あふれる服装をして頂いている。また外出時には、その場に応じた服装や、お化粧品などをすすめ、おしゃれを楽しんでいただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日、買物に行き食材、メニューを一緒に決めている。それぞれの残存機能に合わせて、セッティングし、なるべく一緒に食事の準備、片付けを行っている。	毎日利用者と買物に出かけ、その場で献立を決め、ホームの菜園でその日に取れた野菜が食卓にもぼることもある。利用者と職員は下ごしらえや配膳・下膳、食器拭き等一緒に行っている。食事は利用者と職員が同じテーブルを囲み、野菜の出来栄えや買い物話題で盛り上がり、賑やかで楽しい食事風景が見られる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取に関しては1日1000ccを目標にしている。毎日の食事量や1か月に1回の体重測定にて、栄養管理ができていないかチェックしている。食事量が少ない入居者様に関しては、医師の指示の元栄養ドリンクをすすめ、健康維持に努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声かけ、誘導にて口腔ケアを行っている。介助による口腔ケアを拒否される方に関しては、週に1回の訪問受診にて清潔保持を行っている。		

ニチイのほほえみ我孫子(あしたば)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は、トイレでの排泄を促し、排泄の自立を支援している。一人ひとりの残存能力、排泄パターンを把握し、自立に向けて、日々検討している。	日々の排泄はチェックリストに記載し、個々の排泄パターンを把握してトイレ誘導している。職員は利用者が失敗して傷つくことのないよう配慮しながら、日中のおむつ利用はせずに、パットを使わないことを心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い、バランスの取れた食事を意識して提供している。便秘傾向の入居者様については、医師との連携のうえ、食事内容や運動量などの原因を追求し、対策を考えている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々のペースに合わせてゆっくりと入浴して頂いている。午前中から20時までの希望に合わせて、入浴できるように支援している。毎日入浴の声かけを行って、本人の自由意志にて介助、見守りを行っている。	午後から好きな時間に入浴できるよう支援しているが、毎日入浴されている方もおり、利用者の希望に沿って午前中や夜の入浴も可能である。拒否が見られる利用者に対しても、職員のタイミングを図ったり、誘導方法を工夫するなどして、3日に一度は入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠剤を使用せず、日中の活動を増やしたり、入浴時間を変えたり工夫している。無理に入眠を強要せず、本人のペースにあった睡眠ができるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬には職員は副作用、用法等を理解し、また薬剤師による分包、配置により安全に服薬支援を行っている。症状の変化時すぐに医師、薬剤師に相談できるよう連絡体制を取っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑仕事や料理などは経験してきた入居者様に教えてもらいながら、行っている。また洗濯たたみや食器洗いなど長年培ってきた生活習慣は、本人の役割として出番を作っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ほぼ毎日、散歩や買物に出かけている。近隣の喫茶店や地域の催しに出かけたりと、地域交流も兼ねて、外出を楽しんで頂いている。地域の喫茶店やスーパーでは顔なじみとなり、地域交流の場となっている。	日課として散歩や買い物に出かけており、それにより顔馴染みが出来、声をかけてもらったりしている。個別でも利用者の希望に沿って、喫茶店やデパート、映画等に出かけている。行事として電車で動物園に出かけたり、毎年日帰り温泉旅行に出かけている。今年には住吉大社に歩いて初詣に出かけるなど、職員による熱心な外出支援が行われている。	

ニチイのほほえみ我孫子(あしたば)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人様のお小遣い金を各々財布を用意しお預かりしているので買い物の折はご自分の財布で買い物をして頂いている。なお管理はホームにて行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人、家族様の希望に応じて電話、手紙の取次ぎなどの支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には生け花、リビングには観葉植物、小さな水槽にはメダカなどと施設でなく家庭であることを意識し、落ち着いた和みの空間を提供するよう配慮している。	玄関を入ると、ボードに職員の表札が掲示され誰からも良くわかるようになっている。リビングは明るく、毎月共同でカレンダーを作り飾られ、季節の花や観葉植物を配し、季節を感じる配慮がなされている。また玄関のベンチや和室、ソファー等、寛ぎの空間も用意されている。庭の菜園では利用者や職員の手入れで立派な野菜や花が育っている。メダカや川魚、ザリガニの世話をし、飼い猫ではないが、テラスに来る猫を見るのが利用者の癒しになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関先、ベランダにはベンチを設置、暖かい日には気のあった同士でテラスでお茶やお喋りを楽しんでいる。リビングの和室や陽だまりのスペースで思い思いに心地よく過ごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々の個室には自宅で使用していた家具を、女性には鏡を、ベッドの嫌いな方には畳を敷き職員と一緒に布団の上げ下ろしを行うなど、また夫婦で入居の方は寝室、リビング2室を利用などその人にあった過ごし方を工夫している。	入居の際に馴染みの品を持参してもらえよう家族に伝え、女性の利用者には鏡台を持ってきてもらっている。居室はフローリングとなっているが、以前の習慣を持続するために、畳を敷き布団で休めるよう配慮している。利用者は自宅より、ベッドやタンス、位牌、大切な人の写真等を持参され、配置にも工夫しながら居心地よく過ごされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内は手すりを豊富に取り付けられている。手すりを利用しての歩行訓練。廊下を鉄道に見立てての歩行練習など一人ひとりの能力に応じた自立をめざしている。		